

『アメリカにおけるフレイベル運動』

頤榮短期大學講師

水野浩志

目次

- 一 序説
- 二 フレイベル運動の一般的特徴
- 三 実際教育に及ぼせる影響
- 四 アメリカにおける幼稚園の発達
- 五 フレイベルの幼稚園原理に対する批判
- 六 むすび

一、序説

フレイベルの百年祭を迎うるに当り、此処にフレイベル特集号を出し、もつてフレイベルの偉業をしのぶと云う事は、ただにフレイベルの功績をたたえるだけでは無く、現今の複雑なる教育問題解決の鍵を見出し、眞の教育の在り方を反省

するに最もよき機会であると思う。万物は常に變轉進化する一瞬たりといえども停滞する事を許さないのであつて、ひとり教育の道においてのみ停滞の許さるべきはずは無い。しかし、又反面歴史はくりかえされている。フレイベルの偉大なる教育思想も、百年前と現今において、いささかも變る事なく妥当すると云う事はあり得ない。殊に現今の如く、心理学、生物学、科学の進展した時代において、百年前のフレイベルの教育思想をそのまま現今の教育に当てはめようとするが如きは、フレイベルの眞意を解せざる者と云うほかは無いであろう。彼はその当時における科学的、哲学的、心理学的基礎に立つて、彼の教育論を展開したのである。更に彼はもつ

と広範なる心理の發達を歓迎し、それ等の心理学的結果を新しい立場から教育的に価値あらしめたであろうと、想像されるのである。然しながらフレーベルの思想を流れる根本的な原理と云うものは、現今においても、いさかも變る事なき教育原理である事を我々は認めざるを得ないし、彼が眞の教育愛をもつて、深き洞察力と兒童の觀察から組織づけた彼の教育論の中に脈々として流れる原理こそは、むしろ、余りにも科学が分化し、専門化した爲に、かえつて生命を失いがちな現代の教育の行き方に対し、大きな警鐘を鳴らすものであると云う事が出来よう。

人はフレーベルと云えばすぐ幼稚園の設立者、遊戲、恩物の創案者位にしか見ていない。或いは又、フレーベルが如何に現今の新教育の源泉をなしているかを余り理解していません。現今の我が国における新教育運動は歴史的必然とは云え、ほとんどアメリカにおける新教育運動に模倣せしめられているのであるが、そのアメリカにおける新教育運動の起源をなしているものは実に Parker School と Deney School にとであり、アメリカ新教育を全体的に急激に發展せしめた導火線となつたのである。しかも之等は共に、フレーベルの自己活動を中心とする教育理念を高調する改革運動であつた。しかして此の運動から派生して Child Center School や Project Method 或は Winnetka Plan, Dalton Plan,

Work book Plan 等を生じたのであり、それが更に修正されて Kipatrick 等を中心とした Community School 運動となつて来たのである。かく觀じれば、アメリカにおける新教育運動の根基には、世人否教育者からさえ忘れられてゐるフレーベルの教育理念があまねく滲透している事を見逃す訳には行かないのである。

かくの如く、アメリカ新教育の根幹をなしたと云われるフレーベル運動とはしからば如何なる内容を持ち、實際教育に如何に影響し、具現されているか、そして又、アメリカにおいてフレーベルの教育思想に対して如何なる批判を下しているかに就いて以下に論述しよう。

二、フレーベル運動の一般的特点

現代アメリカ教育思想を構成した三つの大きな流れとして、ペスタロッチの運動と、フレーベル的運動と、ヘルバルト的運動の三つをあげる事が出来るのであるが、之等について一々詳しく説明する事は紙面の都合上之を割愛し、只最も偉大なる教育家ペスタロッチにより具現された教育実践の中から二つの異つた立場をもつて組織化され、体系づけられたのがフレーベルと、ヘルバルトの教育理論であつたと云う事を指摘し、之等の教育思想の織り成す綾と、アメリカの実証

主義、開拓精神並びに現代心理学と生物学の基盤等より、アメリカの現代教育學説が生れて来たと見る事が出来よう。そこでアメリカにおけるフレイベル運動なるものの性格を D. Monroe に従つてヘルバルト運動との比較の下にその特色を概観して見る事にする。

ヘルバルト運動と云うものは、元來主として教育哲學の運動であつたのであり、その教育哲學の原理から種々なる形において適當なる教育實際が演繹され、その時代と場所と解釈者により變化されて来たところのものであつたのである。これとは反対に、フレイベル運動と云うものは、幼稚園と云う特殊な学校陶冶に關聯した教育實際の運動であつたのであり、その幼稚園教育から漸次、学校教育のすべての段階に適用し得る原理を横たえているものとしての認識が、広く教育一般の中に生じて来たのである。しかしてヘルバルト運動の特色とする處は、教授技術を完成する事、並びに教授課程を最も重視する事であり、フレイベル運動の特色は子供それ自身に重きをおき、教授の出発点、並びに手段として、子供の興味、経験、自己活動を重視するものなのであり、しかもその際、教室の雰囲氣や風紀、精神の向上を目指している、と云う事である。前者は教師の機能を最上視し、後者は児童の自己活動を重視している。ヘルバルトにおいては、道德的品性を陶冶する手段として教授を強調したのに対し、フレイベ

ルは児童の刺戟され、指導された活動力を強調したのである。ペスタロッチ、ヘルバルト、フレイベルこの三者は何れも道德的品性の陶冶と云う事を教育の目的としていたのであるが、ペスタロッチはむしろ、形式的な手段によつて、道德的品性の陶冶を爲そうとした。即ち道德的な諸徳目の中において、直接的な訓練を通して、又、「頭、手、心臓」と云う三機能の同時的訓練を通して別々な方法によつて、その目的を果そうとしたのである。ヘルバルトは同じ目的を教授によつて果そうとした。即ち、彼に依れば教授によつて教えられた理念は願望を刺戟し、願望は行爲を刺戟する。そして、表象間の相互交流作用から形作られた理念によつて導かれた行爲と云うものが道德的品性を生み出すものであると考へたのである。フレイベルにとつては教育と云うものは、児童の自発的な活動から出發し、その自発的活動から理念に迄導かれるのであり、絶えず意欲的興味を形成する如きものであつたのである。故にそれは、只知的な訓練と云う如きものより、もつと遙かに感情的、意欲的なものであつた。

この兩者はいずれも、ペスタロッチから出發しているのであるが、ヘルバルトはペスタロッチの見解中「教育は外界との経験から理念を抽出す事であらねばならぬ。」と云う Sense Perception (感覺認識) の訓練と云う見解を更に進め、「即時的直接的な外界からの印象と云うものこそあらゆる

る知識の絶対的基礎である。しかしして、心の内容も又全く教師の手によつて形作られるものである。」と云う事を信じ apperception (統覚) の訓練、並びに経験の結果を完全な高き品性に迄同社会化せようとする訓練に迄、論を進めたのであり、フレーベルにおいて、同じくペスタロッチの見解中、「教育は人間内部からの自然發展であるべきである。」と云う見解から出發して、未だ感覺的に組織づけられていない初期の段階にある児童の、自然の生得的性格は精神的諸活動に對する児童自身の感情的、意欲的な面を通して、最も多く訓練され得るのである。」との更に根本的な原理にまで掘り下げたのであり、教育は児童の生得的な萌芽を児童自身の自己活動により、發展させて行く事であり、教師は児童の自己發展への努力に對して刺戟したり、援助したりする事が出来るのみである、と答えた。フレーベルはヘルバルトの知的性格と云う如きものではなく、人間精神の意欲的性格と云うものこそ教育の最も基本的、根本的要因であると、考えたのである。

かくの如く、ヘルバルトの教育理論と、フレーベルのそれとの根本的相違は明白なのであるが、かかるフレーベルの理論を實際面においては、フレーベルは只教育の最初の段階である幼稚園のみ適用したのである。しかし乍ら彼のより哲學的な著作の中に述べられている教育の原理というものは、

あらゆる教育の段階にとつて最も基本的な原理であつたのであり、「かかる教育原理を幼稚園以上のより高い教育段階にも適用せんとする、現在並びに將來の試みは結局眞のフレーベル運動に外ならぬものである。」(Text-Book in the History of Education 1640) と、モンローはフレーベル運動の意義を高調している。又「現在における教育思想並に教育實際における最も甚大なる變革の或るものはフレーベルによつて述べられた之等の諸要求に必ずしも応せんとするものではないにしてもフレーベルの原理に一致しているのである。」(同前六四〇頁)と彼は云つてるのである。今現代の教育に一大變革をもたらした処のデュロイの實驗学校の性格の一端を彼の著『学校と社会』School and Society の中にかがえば、「当小學校はその全課程—四歳から十三歳迄の児童が在學しているが—を通じて、フレーベルが恐らく、始めて意識的に提唱したあの一聯の原理を實行しようとする努力している事を暗示するものである。」(一一一頁)と主張している。これなどは明らかにフレーベルの教育原理を幼稚園以上の教育段階にも適用せんとしたフレーベル運動に外ならなかつた事を知るのである。

モンローは、フレーベルの理念の最もよく表われているものとしてフレーベルの著「Education by Development」(Jarvis 訳)の一節を引用してゐる。即ち、

『生徒並びに学生として、且つ又将来の實踐人として、即ち獨立せる職業人となる處の子供に、眞實にして、永続的、祝福的な有益且つ形成的な効果をあげんとするには、只單にそれが（教育が）現實に現われる生活に基づかなければならぬのみならず、又生活と密接に結合せねばならない許りで無く、人生の要求、環境、並びにその時代の要求と、それ等が提供する處のものとの調和の中にそれを形成せねばならぬのである。それは特に兒童の内的生命の自覚を促す様な効果を持たねばならないし、かつ、兒童の内的生命から自発的に芽生えさせなくてはならない。これこそ人間の發展的教育訓練の性格であり、それは（人生構造に於ける必然法則、並びに自然の法則、宇宙の法則、に基づいた處の）時代の欠くべからざるものと、私がみなす處のものに従い、それを実行するものであり、又私が人生の要求として認める處のものを支持せんとするものなのである。私はかかる教育の一般的、広範な適用、並びにその実施、及び完成こそは、あらゆる人生の諸段階においても、又あらゆる環境の下においても、あらゆる教育の爲さねばならぬ仕事である程、人類並びに諸國民にとつて、非常に重要なものであると信するのである。』

この引用において、モンローはこの中に現代の教授内容を最も著しく變革した二つの局面があるとして、次の二点を強調している。「先ず第一はカリキュラムに関係して居り、教授

内容（教材）と云うものは、それが子供の心や性格の發展を生み出すのに真に欠くべからざるものであるとすれば、それは今現にある生活そのものから、そして、子供をひきつけ子供自身の経験の中からやつて来る生活そのものから選択されねばならないと云う事を断定している。第二の事は補足的な確信で、教育と云うものが若し個人並びに社会の要求せる結果を生み出すべきであるとするならば学校教育の努力は、教育課程を最上のものたらしめる兒童自身の諸活動を通して、現在ある處の生活に直接關係せしめねばならぬと云う事である。」と。かくの如く、フレーベル運動は兒童の本性に立脚して、教育の全問題を企劃し、兒童の意欲的性格と云う基本的な性質を考慮に入れ、兒童の自己活動を通して發展させると云うこの原則から教育の他の問題をも解決せんとする運動なのである。しかしながらフレーベルの現代学校教育に及ぼした影響と云うものは余り顧りみられず、只幼稚園創設者としてのみ一般に知れ渡り、ヘルバルトが現代学校教育に及ぼした影響の跡をたどる事は容易なるも、フレーベルにおいては、極めて不明瞭にされている事は遺憾な事である、しかしながらフレーベルの之等の理念があらゆる現代教育思想に滲透していると云う事實は上の引用から、又後に述べる「D. P. Wey」による、フレーベルの一聯の教育原理として、とり上げてゐるものからも明白になるであらう。「我々は学校の教

育において、教授過程の技術よりも、むしろ児童の諸活動の上に重点が置かれる時、そして又、単に知識の伝達とか、能力の訓練とかよりは、むしろ子供の性格や、人格の發展が考えられる時には、其処にはフレイベル運動の影響が認められるべきであると言ふ事が出来る。」（同前六四二頁）と、P. Monroe は云う。私は今一つ「しかもその際児童の個性を社会的關係の中において發展せんとする時。」と云う事を附加せねばならないと思う。以上一応フレイベル運動の一般的特徴と云うものを概観して見たのであるが、次にフレイベル運動の實際教育に及ぼしている影響について略記して見よう。

三、實際教育に及ぼせる影響

学校教育の實際について、フレイベルは Education by Development において次の様に云つてゐる。「従来の教育と教授、訓練と学校は、一般に子供の生活の外から、若しくは子供にとつて全く魅力もなく、覚醒的な力も無く、發展の力もない様な遠い将来から引き出された理念から、その学校の要求や訓練のやり方を探し求めている。然るに真に子供が爲すべき、学ぶべき事は、自己の活動や要求に内面的に結合された意志や、行爲の力から生み出されねばならず、それは、

自己自身に結合された全生活の直接的即自的努力の手段によつてなされねばならない。確かにこの事は殆んどあらゆる我々の教授課程において示されるのであり、特に大多数の人々に適用されるものである。……」と、かくの如きフレイベルの理念こそ、最も大きな影響をアメリカの学校教育に与えている。フレイベルにとつては、学校と云うものはそこで子供が人生の重要事項すなわち、真理、自由、人格、責任、創造、因果律等を学び、しかもそれ等を只教わると云うのではなく、それ等を生活しぬくと云う事によつて、学ぶべき場所であつたのである。又、彼の統一の基本的理念によれば、学校は各々の子供が彼自身の個性を發見し、その個性を引き出し、そして、率先力、実践力を發展させるべき一つの施設であるべきであつた。しかもこの事を同じ目的をもつて努力している他の子供との協同生活を通して実行せんとしたのであり、その仕事においては皆の者に興味があり、すべての者に責任があり、すべての者に報酬が享受される。な、そう云う協同作業を通して個性を發展させようとしたのである。それ故に相互的援助と云うものがこの学校における絶えざる動機であつた。しかして学校は世界と同様に一つの統一体を爲すべきであり、その中において發展して行く個性の各々が人生への参与を通してその成熟を見出すべきであつたのである。Hughes はその著 Froebels Educational law の中ペン

1レベルの学校の有様について、次の様に云つてゐる。「彼の幼稚園又は学校は、一つの小さな世界であり、其処ではすべての者によつて責任が分け与えられ、個人の権利は皆尊敬され、兄弟的愛情はみなぎり、自発的な相互協力が実施されていた。」と、(一六頁)かくの如く統一の相関としての協同、並びに統一の中の多様、それはすなわち人生の法則であり、實在の法則であるが、学校は社会の縮図であり、教育は実に人生に対する準備としてではなくて、人生の縮図としての一位相であると云う考えが此処から生れて来るのである。教授と云う事は子供の自発的な諸活動、並びに生来の興味から發して、何等かの創造的仕事を爲さしめるとか、或いは、望まれたる知的目的、知的表現を爲さしめると云う一聯した過程の中間語義となるのである。生来的な傾向の上に、望まれたる教育目的、として是認される如き一つの習慣、又は習性とか、或いは活動様式や思考様式が接木されるのである。かくの如く教育は自然を無視するものでもなく、又自然を全く放任して置くものでもなく、自然を援助せんとつとめるのである、自然が援助なしに到達するよりも、より高い目的に迄自然を導き、或いは少くとも之等の諸目的をより迅速な直接的な手段によつて、手に入れる様にとめるものなのである。これこそは現代学校教育の眼目となるのであり、さればこそデューイは、フレールベルの理念実現の爲の実験学校をシカゴ

の大学に設けたのである。今此処にデューイが実現せんとしたフレールベルの一聯の原理と云うものを彼の「学校と社会」の中から取上げて見よう。

一、学校の第一の仕事は、協同的、相互扶助的な生活の中において児童を訓練し、彼等の中に相互依存の意識を養ひ育て彼等を実際に助けて、この精神を明白な行爲として実行させる様に調整せしめることである。

二、すべての教育活動の最も根本的な基礎は児童の諸々の本能的、衝動的な態度および活動に存するのであつて、他人の觀念を借りるにせよ、或いは本人の感覺に訴ふるにせよ、とにかく外部的な材料を提示し、適用することに存するのではないと云うこと。したがつて又、児童の数がぎりなき自発的活動、すなわち遊戯、競技、物真似さては幼児の一見無意味な動作——在来はつまらぬもの、無用なものとして無視されるか、或いは積極的に邪悪的なものとして難ぜられさえした現象——は、これを教育的に用いることが出来るのであり、否、實に之等の事は教育的方法の根本的礎石なのである。

三、これ等の個人的な傾向並びに活動は、さきに述べた協同的な生活の仕方を爲している中に組織され、方向づけられるものであるが、それはこれ等の傾向や活動を利用して、児童が最後にはその中に入るところのより大なる、より成熟した社会の典型的な行爲及び仕事を児童の程度に應じて再現す

ることを意味するのである。そしてまた、児童は生産と、創造的な仕事を通じて価値ある知識を獲得し、確保するものである。

以上がフレイベルの教育原理を平易に解釈した根本的原理であるとし、「以上の説明がフレイベルの教育哲学を正確に代表している限りにおいては当小学校はフレイベルの教育思想の主唱者とみなさるべきである。」(同前一二頁)と云つていたのであり、この実験学校においては如上の諸活動を出来るだけ忠実に誠実に四歳より十二歳迄の子供達に適用したのである。その全過程と云うものは殆んどフレイベルの幼稚園的態度をもつて貫かれていたと云う事が出来るのである。

遊戯……フレイベルの実際教育に及ぼした最も著しい影響の一つは、幼児教育における遊戯の価値を明らかにした点である。フレイベルにとつては遊戯は只心身の発達をはかると云うが如きものではなく、又決して外部からの押しつけられる如き行爲でも無く、遊戯こそは子供の最も特徴ある自発的活動の発現であり、幼 教育過程の基礎となるものであつたのである。子供の生采的な諸興味から、直接的に影響されて最も自然な幹を供給し、その幹の上に教育者によつて是認される如き行爲や感情や思考の習慣が接木されるのである。遊戯を通して始めて子供は自己を世界に明示するのである。それ故に教師が子供に、彼が参与せんと努める人生の事を説明

出来るのは遊戯を通じてだけなのである。遊戯を通して教師は最もよく子供を実際の、社会的關係の世の中に導入する事が出来る。子供に独立の精神並びに相互扶助の精神を与え、率先的動機を供給し、そして社会的全体の一員を構成する個人として子供を發展させる事が出来るのである。フレイベルは遊戯の教育的価値の単なる説明に止まる事なく、幼稚園の実際教育過程において、その理念を実現したのである。しかして、このフレイベルの遊戯の教育的価値と云うものは、ただに幼稚園教育のみに留まらず、学校教育全般に亘つて適用され得るものであつた。かかるフレイベルの理念は漸次アメリカの学校教育に取り入れられるに至つて来たのである。

構成作業……フレイベルはあらゆる手工的生産訓練に対して、又構成的な仕事に対して、明確なる教育的根拠に立つて、構成的生産的訓練が現代教育において占めるべき地位を与えたものであると云う事が出来る。勿論生産的訓練を強調した人に、ルソーやペスタロッチをあげる事は出来るが、ルソーにとつては、教育の一面面としてしかみとめられなかつた。又ペスタロッチは知識の基礎としての感覚訓練として生産活動を重視したのであり、フェレンベルグは社会的、経済的見地より、より以上には前進しなかつた。しかるにフレイベルにおいては、その生産的訓練にペスタロッチの受動的な目的より更に進んで、創造的な目的を与えたのであり、そ

の創造的生産を通して、子供の内的萌芽を發展させんとしたのであり、この生産的訓練を通して、学校教育はその最高目的に達するものであるとしたのである。しかしながら、フレイベルは、この構成作業の価値に關して、現代科学思想では少しく不可解な、神秘的な価値を之に附加してゐるのであるが、之は彼の神秘的象徴主義から結果するものとしてアメリカにおいて之を余り重視せず、只構成的作業の価値を次の様な原理として、大いにとめてゐるのである。すなわち、「教育と云うものは、内的自己を外的に顕現し、表現する力を發展させる事に、外ならぬのであると云う原理としてである。手による創作と云うものが、内的自己の最も高い表現であると云うのでは無く、この子供の内的衝動より始められた物的表現の力の發展と云う事が、習性とか、性格に晶化されて知的、道徳的、精神的行爲を表現する、より高い力の基礎となると云う事に外ならないものである。」(モンロー、前掲書六六二頁)と。かかる見地から学校における構成的な仕事は只單なる感覚の訓練とか、技術の發達とか、体力の練磨とか、機械的道の程の参与とか、職業人としての技術の獲得とか云うものよりも、より深い目的を持つものとして、即ち、それは内的理念の最も具体的な表現形式として、又諸々の習慣形成、性格形成の最も確実なる過程として、現代教育において大いにその価値を認められてゐるのである。以上の如く

フレイベルの教育原理における現代的要素と云うものは顯著にして、その長所と云うものは現代学校の教育過程における最も重要な法則として、次第に認知され、あらゆる有効なる教授方法として高く評価されるに至つたのである。フレイベル自身は幼稚園以上の学校教育過程に彼の原理を組織しはしなかつたが、時間の余裕さえあれば、上級学校の教育過程にも之を入れようとした事は当然考えられる。しかしながら、このフレイベルの理想は漸次理解され、教育のすべての場において、獨創的に断行、協力、自己活動の方法により、個人を發見し、且つ發展する理念を実現する様になつて来た。その著しき例は遊戯や構成的作業をこの目的に従つて益々使用する様になつて来たのである。例えば“busy”(多忙仕事)“whittling”(削り作業)“clay-modeling”(粘土細工)並びに“loyd”(手工教授法)と呼ばれる教育法は十九世紀中、アメリカの諸学年に採用され、更に Manual training (手工訓練)と云う、より進んだ様式で推奨された。之は現代のハイスクール更に進んでは専門学校の教育においても特殊の様式の学課過程となつた。何れも大部分はフレイベル主義の影響と云うべきものである。当時ヨーロッパにおいても手工訓練が盛んに用いられる様になつたが、それ等はむしろ工業的生産的効果の爲めに行われたものであつた。教育的効果の爲めにこの構成的作業を用いる様になつた始めは、一八

七六年、フィラデルフィア大博覧会において行われたものであり、之が全米合衆国に暗示と反響とを与えたのである。之に刺戟されて、近代的教育理念と、教育實際の種々なる典型特に実験を伴う処の研究が合衆国において盛んとなつたのであるが、之等は何れもフレイベル運動の大きな要素を啓示したものである。その中には Colone Parker の事業並びに John Dewey の功績と云うものが含まれている。パーカーはヘルバルト式教育方法を採用し、特に之に力を入れたにも拘わらず、彼は又フレイベルの高調せる自動的表現、教育の社会的見解、並びに形式ばらぬ学校教授を小学校教育に採用せしめた点、著しき貢獻であつた。又、デュイイの構成的作業並びに、生産活動等は、何れもシカゴの実験学校において実験されたものであるが、それ等は直接フレイベルに模倣したものではないが、まさしくフレイベル式幼稚園の形を変えた實際教育に過ぎないと云うべきである。以上アメリカにおけるフレイベル運動の實際教育に及ぼしている学校教育の理念、並びに実情に就き、その概略を述べたのであるが、次にフレイベルの教育理念の具体的な表われであつた幼稚園の、アメリカにおける發展を簡単に概観して見よう。

四、アメリカにおける幼稚園の發達

フレイベルはその教育理想を實際においては、彼の幼稚園教育において之を具現したのであるが、彼の幼稚園教育の理念に就いて詳しく述べる事は他に譲るとして、此処には、フレイベルの創案した如き幼稚園がヨーロッパにおいてよりもむしろ、アメリカにおいて最もよく發達したと云う事について、その理由、並びにその發達過程を略述しよう。先づその理由として挙げられる事は、幼稚園における教育法と云うものは、当時において全く新しいやり方であり、之等の創造的活動を重んじ、自然の觀察の中に於て、神的なものを洞察し宇宙の統一法則を見出さんとする方法、或は他からの押しつけの方法を一切排除し、兒童の自由なびのびした肉的生命の發展をはかる等、当時の、ヨーロッパの伝統を固守し、或いは専制主義的体制の時においては、何れもその完全なる發展を見る事は不可能であつたと思われる。しかるにアメリカに於ては、未だ固定した如何なる觀念もなく、すべて未開の荒野を自らの手によつて切り開かんとの開拓者精神や獨立精神に燃え、實際に自らの經驗によつて何事をも立証せんとする実証的精神やピュリタニズムによる清新な氣が国土に満ち満ちていたのである。さればこそフレイベルは当時自己の幼稚園禁止令にあり、悲歎にくれつつ、『アメリカ國民の精神こそは自分の創造的方法と、完全に一致している処の世界唯一のものであり、幼稚園の正しい設立もアメリカ國民性に何

等差支えを及ぼさないであろう。』と云い、アメリカに渡つて自己の幼稚園を設立する事を懇願したのである。又、バロネス・マールンホルツ・ビュロー夫人が晩年ビーボデイ嬢に書き送つた手紙の中で、彼女が『硬化してしまつた如きヨーロッパの保守主義の国の中に、この生き生きとした芽生えを植えつける事が非常に困難であるという事、そしてこの生き生きとした萌芽は、使い古されぬ、耕やされたばかりの新鮮な土壌を要求し、アメリカの原始的な活動力を持つた、アメリカ国民性のあらゆる生き生きとした影響力が必要であるという事』を悲し気に書き送つてゐるのを見ても、何故アメリカにおいて、フレイベル式の幼稚園が発達したかの理由を洞察するにたたくないと思われるのである。しからばかくの如く、フレイベルにより望まれたアメリカにおいては、その幼稚園は如何なる発展をたどつて来たのであろうか。

アメリカにおける幼稚園の最初の試みは十九世紀中頃に始められたのである。一八四八年の革命の影響で国内的にも家庭的にも不安定な状態であつたヨーロッパでは、アメリカに移住する者が多かつた。その中で教養ある独逸人達は、彼等の子供達の爲に通常、幼稚園を含んだ私立学校 German American Kinder Garten を建設した。一八六〇年に Elizabeth P. Peabody 並びに若干の人々は、Mrs Carl Schury が行つた。フレイベル運動の話に興味を持ち、詳細なるフ

レイベル教育体系の知識もなしに、ボストンに始めてアメリカ式幼稚園を開設した。その学校は直接的な成功をおさめ、子供達が非常に喜んでにも拘わらずビーボデイ嬢は自分がフレイベルの眞の原理、並びに精神を得る事に成功してなかつた事を感じ、一八六七年に、彼女は当時ハンブルグに数年間滞在していたフレイベルの未亡人の所へ勉強しに行つたのである。彼女の帰国した翌年ビーボデイ嬢は、彼女の仕事における過程を是正し、そしてフレイベル主義を説明し広める爲に定期刊行雑誌を出版した。彼女はその後、余生をよき親として、又博愛主義者として学校の委員として過したのであるが、彼女のアメリカにおける幼稚園に対して爲した功績と云ふものは、殆んどヨーロッパにおける、バロネス・マールンホルツ・ビュロー夫人の幼稚園事業にも匹敵するものであつた。一八六八年にビーボデイ嬢によつて合衆国における最初の幼稚園保姆養成所がボストンに建設せられ、同様な学校が Maria Bölte (後 Mrs Maria Kraus-Bölte) の監督の下に一八七二年、ニューヨークに開設された。ヴェルテ嬢は、フレイベル夫人の下で勉強した人で、ニューヨークに幼稚園を開設する様 Germerey Park の Miss Haines に招聘されて来たのである。彼女の教え子達、並びに独逸幼稚園の人達によつて、アメリカの幼稚園運動は急速に進展した又ヴェルテ夫人の学校から Susan E. Blow が分岐して、セ

ントルイスに偉大なる事業を始め出した。そこでは無料の保
姆養成学校を開設したのである。その二年後にはマサチュー
セツツのフローレンス生れの S. H. Hill は、彼の近村に無
料の幼稚園を創設し、又四年後には Quincy A. Shaw 夫人
は、ボストン近くの種々なる場所に幼稚園を設立し始め、遂
に彼女は少くとも三十以上の幼稚園施設を作つたのである。
多くの他の博愛主義者達も非常に幼稚園に興味を持ち始め、
百以上もの私立団体が間もなく皆幼稚園を経営する様になり
一八七六年には "Froebel Union" (フーベル協会) によ
つて、カリフォルニアへ招聘された Emma Marw del の
働きにより、すばらしい保姆学校がロサンゼルス、オークラ
ンド、並びにバークレイに建設された。私立幼稚園は同じ様
に、各地に急速に開設され、一八七八年には Golden Gate
Association (金門協会) が、サンフランシスコに組織され、
それはその全盛期には五十一の私立学校施設と、卓越した保
姆養成学校を持つていたのである。一八七〇年より一八九〇
年の間に、ミルウェーキー、シンシナティ、デトロイト、ピ
ッツバーグ、バルティモア、フィラデルフィア、クリーブラ
ンド、ワシントン、シカゴ、ルイスヴィル、並にその他の地
方の中心地には、教会或は博愛主義者の媒介によつて、署名
が爲され、その幼稚園事業は到る所に急速に發展した。十九
世紀の終りまでには約五百以上の同様な私立団体があつたの

である。

しかしながら博愛主義的私立施設は結局、限られたもので
あり、それは合衆国における真の國民的運動たる学校組織に
採用される迄には至らなかつたのである。所が、一八七〇年
頃、ボストンでは、その公立学校に二、三の幼稚園を附属せ
しめたのであるが、実験の数年後には、費用の点で、それ等
は廃止されて了つた。市の會議の下に依られた最初の永続的
な学校は、一八七三年、セント・ルイスに、ブロー夫人やウ
イリアム・ハリス博士の努力、並びに市の視学官の努力によ
つて設立されたものであつた。始めそこでは十二の幼稚園が
組織されたのであるが、その他は、ブロー夫人の保姆養成学
校で、充分資格ある幼稚園管理者が準備されるをまつて、急
速に開設されたのである。その後十年以内に、セント・ルイス
には、五十より以上の公立幼稚園、並びに約八千人以上の生
徒が居たのである。サンフランシスコでは一八八〇年に、公
立学校に幼稚園を公然と附属する事になり、爾後二十年間に
ニューヨーク・ボストン、フィラデルフィア、パツファロー
ピッツバーグ、ロツチェスター、プロビデンス、ミルウェ
ーキー、ミネアポリス等の市に、そして又大概の他の進歩的
な諸都市、小自治都市にさえも、幼稚園が彼等の学校組織の
欠くべからざる一部分であるとされたのである。一九〇〇年
迄には、学校組織に、この幼稚園学級を包含した所の都市の數

は、約二百もあつた。それは總計約五百の公立幼稚園と、約その二倍近くの先生達と、約十万人より以上の生徒が居た事を示している。約二十もの都市は、幼稚園の仕事を管理するべき、特殊な視学官を配置したのであり、優秀なる保姆養成学校は約五十もの公立、並びに準公立の師範学校によつて維持されており幼稚園事業の課題に捧げられた沢山の、詳細なる論文、便覧、並に雜誌が發行され、合衆国の各州に広く流布されてゐるのである。

更に最近の資料“Public School Organization and Administration by Fred Engelhardt”の四〇二頁(一四四頁)小学校の随意の一年制度としての幼稚園は、今や前初等学級(Pre-Primary Grade)として充分認められる様になり、地方の公立学校制度の全き組織の一部として建設される様になつた。一九一〇年以降、私立幼稚園は衰え、幼稚園を持つた公立学校が多く生じ、一九二四年調査された八一七の小都市(人口二千五百人より一万人)の中で、その三十パーセントが私立幼稚園制度を持つており、三万人以上の人口を持つて都市の半分以上は幼稚園組織を、公立学校組織の中に持つていた。かくして、今迄小学校とは別個に存在していた幼稚園の理論は、何年も曖昧に考えられて来たが、現在では次第に小学校の最初の学級として密接に關聯する様になり、幼稚園の理論は、Child Study (兒童研究)の名前で大いに發展し

た。この制度に新しい生命を吹きこんだ人は、スタンレイ・ホール、フランシス・パーカー、並にジョン・デューイ等であり、この運動の指導者であつた。かくて幼稚園保育の精神は、次第に小学校低学年に適用され、一層現代式な研究が之等若き子供達の必要に、よりよく適合される様、探究され今や小学校の四年間は、一般に広い移動可能の教室や道具、必要に応じて使われる如き遊戯場が与えられる様になつたと報じてゐる。

かくの如く、アメリカに於ける幼稚園の發達と云うものは、非常に著しく、フレイベルの根本精神を、如実に学校教育に適用せんと努力してゐるのである。先に述べた如き、デューイの実験学校等も、その一例であるが、単に、フレイベルの理念を、幼稚園の教育理念として留めるのではなく、それ以上の学校教育の制度の中に、この精神を、實際に生かしてゐるのであり、合衆国の各州において、幼稚園と云うものは、各学校の最低学級として正規の学校組織に編入され、或はその独自の幼稚園の名称さえ、解消されるかも知れない、と云う現状にある。しかし幼稚園の名は減んでも、その幼稚園の教育精神は減びずに、むしろ却つてフレイベルをして我が意を得たりと云わしむるかも知れないのである。現今、我國の幼稚園教育は相当活氣を呈し始めたが、未だ未だ幼稚園教育が小学校教育より分離し、孤立状態にあり、両者の間に

密接なる聯関がないと云う事は非常に遺憾とする所である。アメリカにおける幼稚園教育の実情と思ひ合せ、更に一層の努力と研究、並びに團結を我が幼稚園教育者に促す次第である。

五、フレーベルの幼稚園原理に對する批判

アメリカにおけるフレーベル運動の性格、實際教育に及ぼした影響、並びにその最も具体的ならわれである幼稚園の發展過程を一通り概観して来たのであるが、最後にフレーベル運動に對する現代アメリカの批判と云うべきものを述べて見たいと思う。前記の論述において、我々は如何にフレーベルの教育理念が、偉大な影響を現代教育に与えているかが明らかとなつたのであるが、それは必ずしもフレーベルの教育理論のことごとくが現代教育に妥當するものであるという訳ではないのである。殊にフレーベルの神秘的、宗教的、象徴主義的な表現は、現代心理学からは説明し得ぬ不可解な点を多く藏しているものであり、アメリカにおいても、フレーベル主義を唱える人々が全くフレーベルに盲信し、あえて現代科学に立脚して之を新に進展せしめ様としない人々を批判し、反省を促しているのである。しからばアメリカにおいては如何なる批判がフレーベルの原理に對して加えられているので

あるるか、次に現代アメリカの新進鋭敏の教育学者 KIPPART-HOLT 教授による『批判に試みられたフレーベルの幼稚園諸原理』（一九一六年）なる本より、現代アメリカ教育の光に照らして見た峻厳なるフレーベル批判の一端を紹介しよう。彼はその序文において、『過去二十五年の間に幼稚園の改革がしつかりした足どりで前進したと云う事は全く眞実である。しかし、幼稚園の経営者達の重要な母胎は、今尙その改革に反對している。彼等の理論が従来そのままであるならばすなわち、彼等の同類の人々に對して特殊な専門用語で述べられた事実上の神秘的教義である例のままの理論であるならば、その教義は適切なる評価を欠いて居り、彼等の幼稚園は初等学校この適切なる調整を欠くであろう。』しかして『教育の一般的研究者が幼稚園の教育理論を全教育理論と密接な關聯の下に正當に位置づけるまでは、幼稚園は一ケの獨立したものととして、他の教育的努力とは關係なきものとして、存在するのである。』『完全なる幼稚園の改革と云うものは、あらゆる人々の協力によらなければならない。』『この本の主要目的は幼稚園の理論と、實際の改革を広めるのに役立つ事なのである。』と云つて居る。彼はアメリカにおける経験を積んだ幼稚園の先生や学者、並びに小学校の先生を主体とした、フレーベル幼稚園に關する講習会を開き、現代の光に照らしつつ批判を爲し、更に原典を参照して痛烈に批判を

加え、この本を出版したのである。さればこの本に述べられたフレイベルに対する批判、並びに評価と云うものは、アメリカにおける幼稚園教育者、並びに初等教育者の一般の見解を代表しているとも見る事が出来るであらう。この本の詳細なる検討は又後日に譲る事として、今此処では彼の見解の結論的なものを紹介するに留めて置こう。彼はその中で、フレイベルの根本的誤謬として、次の諸点をあげている。

1、相反の法則 Law of opposites

この法則はフレイベルにとつては、宇宙の根本法則であり、彼の教育体系の方法上の基礎であつたのである。この事については余り論述しなかつたが、この相反の法則と云うものは、彼の教育著作の到る処に表われている。フレイベル自身「私の教育的方法の全体は、この原則のみ拠つて教育の方法が合理的なるものか否かは、この相反の法則を認識するか否かにかかつてるのである。」と云い、この法則をあらゆる処に適用している。殊に恩物における美的形式を作る時にこの相反の法則を役立たせているのである。かかる法則に対して、キルパトリックは、「其処では何等かその様な事があると云う事は疑い得ないが、その分量たるや実に僅かなものであり、」（同前四八頁）その様な法則を認める必要は無いとし、「フレイベルにとつては、この反対法則は

宇宙の根本的法則であり、彼の教育体系の根本的意識であつたが、我々はこれ等の何れの立場をも認める事は出来ない。」と、又「フレイベルが彼の教育の実際が相反の法則の上に導かれたと自ら云つてゐるのは悲しむべき事の様に思われる。」（同前五四頁）として、フレイベルの相反の法則が象徴主義に禍されたことづけの説明であると、その根本的誤謬を指摘してゐるのである。

2、発展の法則

フレイベルの自己発展の原理は、現代教育にも大いに取り入れられた非常に価値あるものであるが、しかしその中にも受け容れ難い点として、フレイベルがその発展を萌芽の中に存在した内容を充分に発展さす事とした点に誤ありとしてゐる。兒童の有せる萌芽と云うものが、それ自身善にして、大人の持つべき理念を内に藏せるものであり、只それを開發するものであるならば、指導等は要らぬはずであり、又何等社会的選択等は要らぬはずなのに、フレイベルは其処に指導を認め、又、社会的選択を認めてゐる点、非常に中途半端な理論であるとしてゐる。又、「子供の内部にこの社会選択の要素があるのだと云う事を許す事は出来ない。この事を承認するのは社会的環境の価値を排斥する事になるのである。又単に、子供の内からの自己発展と云つても、純粹な従屈的教育

は単なる野性と無秩序に導くであろう。』(同前九二頁)と云つてゐる。そして、フレーベルの云う内的理念に關しては、フレーベルが『若し子供の中に横たわつてゐなかつたならば、又若し、それが子供の内に生きて居り、働いてゐなかつたならば、そして又若し、既に子供の生命を意義づけてゐなかつたならば、それは決して後年になつて、子供から出て来る事はなかつたであろう。』と云つてゐるこのフレーベルの信念はフレーベルの著作の至る處に出て来るのであるが、それ等は象徴主義と結びついて極めて認容し難い供述をなしてゐる。とし、『現代心理学は、この様な教義に対して、何と云うであらうか、フレーベルは現在、我々が本能的なものと云う一般的な考えの下に入れてゐる様なものと同一現象を、明らかに考へてゐるのである。子供の中には未だ学ばれざる傾向があると云う事は、論ずる余地は無い事實であるが、しかしそれが果して「内的理念」であらうか？子供が円周遊戯に興味を持つと云う事は「宇宙の軌道運動の内的予見から」とか、「人類一般の集合的生活の象徴であるから」するのであると云う様なフレーベルの信念を証拠づける何ものをも見出し得ないし、又全体 Whole を求めると云う子供の要求は、形而上学的全体に対する興味と何等の關聯をも持つてゐない。その様な予期とか、予感とか、内的理念とか云うものを現代心理学は輕蔑と、嘲笑をもつて、信じないのである。』

(同前六五頁―六六頁)として、徹底的にフレーベルの内的理念の根本的誤謬なる事を指摘してゐる。この事は Dewey も同様な事を云つてゐる。『フレーベルが兒童の先天的能力の深遠を認め、之に熱心な注意を拂つた事、及びこれを研究せんが爲に世人を誘導した彼の感化は多分成長の觀念を広く世界に認めさせた近代教育において個人としては最も大なる貢獻である。けれども、彼のいわゆる發展の觀念及びこれを奨励する彼の方法は、彼が發展と云う事を既に出来上つてゐる潜在力がただ外的に開發する事にほかならないと見ることによつて、痛ましくも阻害されてゐる。』(民主主義と教育六七頁)と。

3、象徴主義

これについては相當詳しくキルバトリックは図解して述べてゐるが、その結論だけを云えば、象徴的な連けいと云うものは、象徴の觀念に先立つ経験から常に生ずるのである。どんな處にあつても、象徴については経験が知覚に先立つてゐるのであり、未來は只過去の關係においてのみ暗示されるのであるとし、『フレーベルの象徴主義と云うものはそれが内的萌芽理念を仮定し、又象徴が経験に先立つて有効であると仮定する限り根拠のないものであると、結論するに難くない。』(同前七九頁)と結論してゐる。Dewey もこの象徴

主義に関する限り同様にフレーベルの根本的な誤謬であると
している。即ち、『フレーベルは具体的な経験的事実と、超
自然的な発展の理想とを連結する爲に、前者は後者の象徴で
あると見たのである。既知の事物を或勝手な先験的形式に当
てはめて象徴と見る事は、或卑近な類似物を捉えて、宇宙の
法則となし、之を珍重がる浪漫的な空想を奨励するものだ。
それはとかく象徴主義の計画の下に或適當なる技術を考え出
し、感覺的に手近な象徴の内的意義を見童に理解させようと
する大人の頭で考え、大人の技術によつて、象徴をおしつけ
んとするその結果、フレーベルの抽象的な象徴主義は彼の見
童に対する同情的洞察以上に出で、彼は教育史上未だかつて
見ざりし程の専断をもつて、外的に命令を事とする悪方法に
陥つたのである。』（民主主義と教育六八頁）と。

4、恩物系列其他

フレーベルの恩物系列に関しては、『彼が子供の自己發展
を促さんとの目的の下に、適当に選択したものであり、彼の
見童教育に対して未だかつてない最も本源的な価値ある暗示
を与えた事は之を高く評価すべきであり、教育方法に非常な
貢献をしたものであつた。』（キルバトリックのフレーベル
原理批判二四六頁）とキルバトリックはフレーベルの恩物に
対してはその努力を認めつつも、その中に流れる内的理念や

象徴主義的傾向に対しては、之を徹頭徹尾嫌い、之を現代科
学に照らして分析し、攻撃している。此処にも又その結論の
みを紹介するならば『①すべてを包含する理念の系列を子供
に与えんとするフレーベルの直接的な目的は論理学と、心理
学との混同に基く誤謬である。②この目的を象徴主義によつ
て完成せんとする、その根本的方法是虚偽にして、人を欺く
心理学に基いてゐる。③若き子供の教育に対し、特殊な資材
とか、限定せる材料を求めねばならぬと云う彼等の充分なる
根拠は未だ現われていない。④若し、その様なものが要求さ
れるならば、それを計画する論理的な手段と云うものは見童
心理学を全く破壊する事である。⑤フレーベルの提案による
恩物系列は、理論的に是認をされず、又実際において不当で
ある。⑥よりよき学課過程に対して科学的探究を妨害する如
きフレーベルの恩物系列を将来之以上に用いる事は、そうめ
いなる幼稚園保育者を悩まし、且つ、最上として知られてい
る教育を樂しまんとする子供の権利を侵害するものである。』
（同前一五〇頁—一五一頁）と。以上の如くフレーベルの恩
物系列が全く象徴的でその目的も、由来も、使用も、仮定的
効果も、皆象徴主義に支配され、完全にその上に基礎づけら
れてあり、その象徴主義が否定されれば、その恩物系列は紛
紛になりその使用は迷信より外の何物でもなくなる。と極論
しているのである。しかしながら、我々はキルバトリックの

批判に対し、これをそつくり受け入れてよいであらうか。果してフレイベルの恩物系列は象徴主義の故にことごとく放棄されるべき性格のものであらうか？ かつて、Miss Peabody は、『私は一言フレイベルの恩物等を改良したと自負しているあらゆる評判のよいものについて警告するであらう。之等の自負について、我々は余り尊重する事は出来ない。フレイベルは彼の半世紀の自分の実験によつて、幼稚園児童の最も必要とする基本的なものを探究し、恩物としたのである。七歳以下の子供達、少くとも三歳又は四歳位の子供達は、あらゆる国、あらゆる時代においても全く同様なのである。』と云つてゐる。(Kindergarten and Child Catur P16) 現代心理学の基盤の上のみ立ち過ぎ、かえつてその真生命を失ふ事のない様、我々は更にこの両者を検討する必要があるであらう。それはさておき、キルパトリックは、フレイベルによつてくわだてられた特殊なる幼稚園の活動は、何等かの意味で、ことごとく象徴的であり、象徴主義との關聯が多ければ多い程、フレイベルの眼にはよりが価値あつたのである。となし、結局『我々はフレイベルの象徴主義に対してはその極微量も幼稚園の目的から取除かれねばならないと云う事、そして、彼の根源的な教育過程の実行は健全なる心理学の要求にかなう様作り変えられなければならない。』と結論している。その他二三、フレイベルの思想に於ける誤謬をキルパト

リックは指摘しているが、しかし彼も又、決して単にフレイベルを非難するのみではなかつた。むしろ、真にフレイベルの理念を愛したればこそフレイベルの偉大なる教育理論を研究し、現代心理学的基盤の上に、之を立てなおさんとしたのみである。キルパトリックは云う『フレイベルの長所の最大なるものは子供に対する彼の熱愛と、子供に対する深い洞察であつた。』と、そして、フレイベルは、『その当時における如何なる人よりも、児童の個性を尊重した。その当時の一般的意見に反対して、墮落の法則を徹底的に排撃した。フレイベルにとつては、児童の自然の興味と云う事は、如何なる能力を養ふと云う事よりも、最も本質的なものであり、尊重すべきものであつたのである。彼の体系の中の遊戯はその實際的教育的立場において、第一のものである。又手細工、並びに構成的諸活動は常に高調され、獨創を尊んだ。之に直接關聯して自己活動の原理は現代における興味の最もよい原理に驚く程似通つてゐる。』(同前二〇二頁)と、又フレイベルの自己表現 expression に関する教育的効果の主張、或いは構成的作業の価値、更にはフレイベルの社会的關係の中にそれを通して、児童の自然的傾向、個性を伸し得る事を主張し、或いは又、自然研究における倫理的要素を高調した事形式的宗教教育を学校教育にもちこむ事を廢止し、或いは教科書中心の教育法、知識万能、記憶万能主義の排撃をした事

等「実にかくの如き幻想の象徴としての幼稚園は教育史上劃期的段階の永久的記念碑として、輝やき残るであろう。」と云い。「恐らく、あらゆるものの中で最も価値ある事は、子供達が教育的活動の下に如何に幸福にいそしみつつあるかを幼稚園を通して、その実際的事例を世界に示したことである。」とし、最後に、「かかるフレイベルの理想的幻想の組織、又かかる可能性は、象徴主義の古い殻を脱ぎ捨てて、恩物をその過程の中に加える事が出来るであろうか、又自発的にして、子供を中心としたよりよき生活のよりよきデモクラシー理念をもつて生活出来るであろうか？幼稚園は一つの普通教育過程の中に、より広い生命を見出さんが爲に、従来の附屬的な非本質的な、部分を失う事に満足し得るであろうか。そして、若し必要なれば、幼稚園はその特有な名前さえも喜んで捨て得るであろうか？既に調査した処によれば、多数の人々—J. Dewey 等—は之等の問題に対して然りと答えてゐる。小学校の一隅に場所を与えられたる幼稚園は小学校の各学級に対して、最上の精神を与えるであろう。しかし、かくすることによつて、幼稚園の独立的存在は失われるが、フレイベルの幼稚園は一層多く、又一層広く永遠に存続することになるであろう。」（同前二〇二頁—二〇八頁）と結論しているのである。

以上はキルパトリック、並びにデュロイのフレイベル理念

に対する批判を略述したものであるが之等の教育と云うものは決して只合理的、科学的に解釈出来得る問題では無く、其処には非合理的、非科学的領域を持つと云う事も忘れてはならない。勿論アメリカにおける如く、現代科学的、心理学的批判と云うものは決してなおざりにすべからざる重要事であり、かかる現代の流にさおさす事なく、只単に過去の偉人の教育理論を導法すると云うが如き態度は排すべきであるが、又反面、現代科学にのみ頼つて、真に偉大なる古人の精神や生命を破棄してはならない。真の教育的効果は実に教師その人の精神にあるのである。今フレイベルの百年祭を迎うに当り、深く古人の偉業をしのび、その偉大なる教育理論の真髓を把握した上で、現代科学、心理学の基盤に立ち、現代に生きるフレイベルの教育論を復活させ、觀念の遊戲に終る事無く、アメリカ的实践力をもつて、我が国幼稚園教育を更生することこそ、現在の我々に与えられた使命であると思ふ。